

第2節 優れた環境人財の育成

本市では、「まちづくりは人づくり」とし、市民は最も大きく重要な財産であると考え、「人財」育成の取組をすすめてきました。とりわけ、環境問題を解決していくためには、一人ひとりが環境との関わりについて理解し、具体的な行動に結びつけることが重要であることから、環境教育・環境学習の必要性はますます高くなっています。そのため、学校、家庭、地域などの様々な機会、場での環境教育・環境学習の更なる充実を図り、子どもから高齢者まであらゆる世代の環境人財が育成されるとともに、本市にある教育・研究機関等の施設群を活用し専門的かつ実践的な知見を身につけ、国内外で活躍するような人財を育成します。

1. 北九州環境みらい学習システムの構築

平成 22 年度に有識者・地元関係者からなる「低炭素社会総合学習システム検討会」を立ち上げ、今後のシステム構築に向けての指針となる意見のとりまとめを行いました。具体的な内容は(1)～(3)のとおりです。

(1) 目的

学習システムは、①ライフスタイルの変革、②学びあい、高めあう交流の促進、③国内外への情報発信 を目指し、「学ぶだけではなく、自ら考え、計画し、行動する『創る力』」、「一人だけで取り組むのではなく、地域とつながってみんなで取り組む『地域コミュニティの力』」、「一方的に学ぶのではなく、相互に伝え合い、学び合う『共有する力』」といった低炭素社会・生物多様性社会に真正面からチャレンジし、『環境未来都市』への原動力となる市民環境力を育むことを目的とします。

(2) 基本的な考え方

市民環境力を育むにあたっては、市民の目線から身近な問題として捉えていくことが重要です。

したがって、システムの構築においての基本的な考え方として、環境学習を「自らの生活」につなげて実践すること、受け取る側のうれしい、楽しいなど「感じる力」を重視すること、文化や歴史を尊重して「北九州らしさ」を全面に出すこと、個々の力を「地域の力」として結集させ、「地域の誇り」へとつなげること、「グローバルな視点」から課題を掘り下げることを掲げています。

(3) 内容

学習システムでは、子どもから大人、また市内外、海外の方々も対象とし、①生物多様性、②家、③食、④資源循環、⑤ものづくり、⑥コミュニティと行政施策の6つのテーマに沿って、対象ごとに学習プログラムを体系化します。

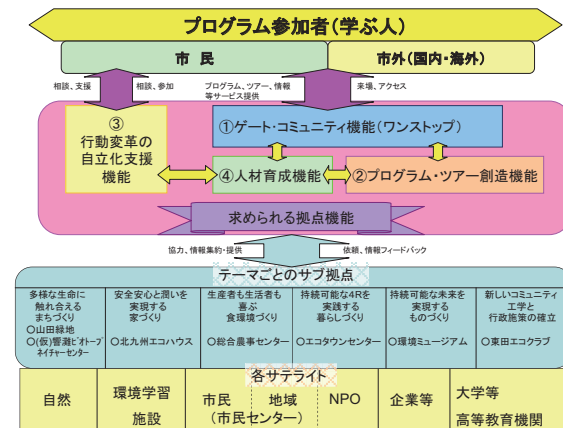
また、予習テキストを作成するなど事前学習の充実や、移動や宿泊、飲食店までも学習素材として、全体で「環境」を感じることができるよう、学習プログラムをストーリー性を持たせた形で組み合わせた学習ツアーを構築します。

併せて、ESD(持続可能な開発のための教育)を市民センターなど市民に身近な場所で普及するなど、環境学習の場とともに行動する場を創設します。又、市民の自律的な行動変革に向けて、「環境首都検定」や「環境家計画」など行動変革の達成度を確かめる指標や仕組みを整備します。

システムの構築にあたっては、システムを支える人材育成が不可欠です。学習プログラム・学習ツアーを作成するなどシステムをプロデュースする人材と市民の自律的な行動変革を支える人材に分けて育成する人材育成塾を様々な団体と連携して創設します。

既存のパンフレットやホームページなどの情報を再構築するとともに、携帯電話など誰もが簡単に操作できるツールを活用した情報発信を行います。

拠点については、アクセスが容易な小倉駅周辺などでゲートコミュニティ機能を持った総合(ワンストップ)窓口を整備するとともに、それを補完する6つの学習プログラムテーマごとのサブ拠点を再整備します。そのほかに学習プログラムや学習ツアーを企画したり、サブ拠点をコーディネートしたりする機能を持たせます。



(4) 進捗状況

平成 25 年度のシステム本格稼働に向けて、検討会の意見を取り入れて、学習プログラム・学習ツアーのモデル実施や人材育成の整備、環境情報提供窓口の開設など段階的に実施します。また、対象地域は市内全域ですが、本市に存在しない環境学習素材を補完するため、「環境モデル都市九州・沖縄3都市連合」などの他地域との連携についても検討していきます。

2. 環境ミュージアムを拠点とした環境学習の推進

環境首都を目指す本市に、市民のための本格的な環境学習・活動交流の総合拠点となる「北九州市環境ミュージアム」を平成 14 年 4 月 6 日に八幡東区東田に開設しました。

館内には、北九州市の公害克服の歴史やさまざまな地球環境問題、それを防止するための環境技術などを展示しており、これらを施設インタープリター(展示解説員)が詳しく紹介しています。また、市民ボランティアである環境学習サポーターによる工作・実験・クイズなどの体験型プログラムにより、環境が身近なものに感じられ、楽しく学ぶことができる「環境学習の場」を提供しています。

また、館内には情報ライブラリを設置し、書籍約 4,000 冊・ビデオ約 260 本などを揃え、パネルや実験機器などとともに貸出も行っており、学校の授業など各種の環境教育に活用されています。

さらに、平成 22 年 4 月 21 日には、敷地内に「感じて」学べる」21 世紀環境共生型モデル住宅「北九州エコハウス」もオープンし、環境に優しい住まいづくりの情報発信も行っています。

平成 22 年度の利用者数は、111,919 人でした。

(環境ミュージアム HP アドレス <http://eco-museum.com/>)

3. 北九州子どもエコクラブ活動の推進

「子どもエコクラブ」とは、子どもたちが自主的に環境に関する学習や活動を行うクラブです。主な支援内容は、環境活動に関する教材や情報の提供、交流と学習を兼ねた宿泊交流会の開催やその指導者「サポーター」を育成するための研修会の実施などです。

平成 22 年度 35 クラブ、2,297 名の幼児から高校生までが活動し、市内の多くの子どもたちの自主的な環境活動が促進されました。

北九州子どもエコクラブは、平成 8 年度に創設以来会員数が常に全国上位であり、クラブ同士の交流やサポーターの育成に力を入れている点が評価され、平成 17 年 3 月に行

われた子どもエコクラブ全国フェスティバルにおいて、環境大臣から感謝状を授与されました。また、平成 20 年 3 月にはその全国フェスティバルが北九州市で開催されました。



「平成 22 年度子どもエコクラブ壁新聞全国大会」で最優秀の「環境大臣賞」を受賞

4. 環境教育副読本による環境学習の推進

環境について学ぶ総合的学習プログラムに基づいて、幼児から中学生までそれぞれの発達段階に応じた環境教育副読本を平成 12 年度から作成し、平成 14 年度に幼児用、小学校低学年・中学年・高学年用及び中学生用の 5 段階シリーズが完成しました。平成 15 年度は、小学生用副読本の教師用指導書 3 種類と、幼児用の大型環境絵本を作成、平成 16 年度は、幼児用絵本の点字本と音声 CD セットを作成し、さらに小学校低学年用副読本を大きく改訂しました。

平成 17 年度は、小学校高学年用の別冊資料として、環境学習サポーターの皆さんが語り継ぐ公害克服の体験紙芝居「青い空を見上げて」を発行しました。平成 18 年度は、本市のごみ収集制度について、全ての学年で学習できる内容に改訂し、教育現場で総合的な学習などの教材に積極的に活用されています。

幼児用	コスモスほしからきたベルル(環境絵本) (汎用版及び大型判、点字本と音声CDセット)		
小学生用	低学年	地球はみんなのおともだち	教師用指導書
	中学年	もっと知りたいみんなの地球	
	高学年	みんなで守ろうきれいな地球 別冊公害克服編「青い空を見上げて」	
中学生用	未来につながるゆたかな地球		

平成 21 年度には、環境教育ワークブック「みどりのノート」(小学校低学年・中学年・高学年用の 3 種類と教師用指導書)の製作に取り組み、平成 22 年春に市内小学校全児童に配布しました。

北九州市の事例を用いて低炭素社会のよさに気づき、身近なところからエコライフに取り組んでみたいと思えるような具体的な例や、太陽光発電などの新エネルギーにも焦点をあてています。各学年の学習に関連させながら、各教科や総合的な学習の時間の中で、児童が自分の思いを書き込みながら幅広く活用することを目的としています。



5. 環境修学旅行の取組み

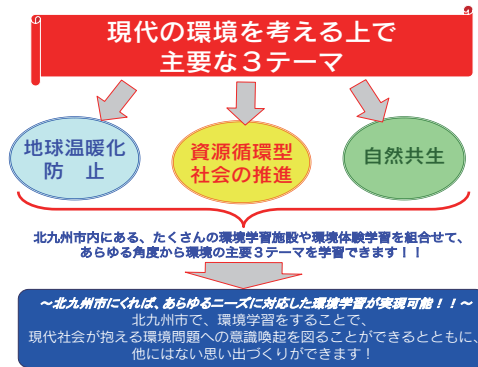
(1) 環境修学旅行とは？

北九州市は、本市の観光振興を一層推進していくため、国内外から高い評価を得ている本市の「環境」を、新たな観光素材とし、本市に集積している環境の施設や技術などと、観光の観点を、有効に組み合わせ「環境修学旅行」という本市ならではの修学旅行を平成 22 年度より開始しました。

平成 22 年度は、九州内から小学校・中学校・高等専門学校、合計 7 校 645 人が同修学旅行で本市を訪れました。

(2) 環境修学旅行の特徴

環境修学旅行の特徴は、現在の環境問題解決の主要 3 テーマである「地球温暖化防止」「資源循環型社会の推進」「自然共生」を切り口に、環境関連施設や企業の見学に加え、ユニークな体験学習やエコ弁当、エコ土産などを盛り込み、楽しみながら環境を学べる修学旅行です。



(3) 環境修学旅行のユニークな体験学習

環境修学旅行の特徴のひとつである体験学習は、本市でユニークな環境への取組みを行っている企業や大学、研究者の方々の協力を得ながら行っています。

■産業廃棄物処分場跡地での植樹

北九州市は、平成 20 年から 34 年までの 15 年間で市内に新たに 100 万本の緑を増やそうとする「環境首都 100 万本植樹プロジェクト」を行っています。

同プロジェクトの一環として、若松区の響灘海岸の廃棄物処分場跡地において、市内企業によりどんぐりなどを植樹する緑化活動が行われています。



この植樹には、カンガルーの糞と、トマトの茎や葉を混ぜ合わせて作られた肥料が使われるという全国的にも大変ユニークな取組みが行われています。

修学旅行生は、植樹をすることにより、市のプロジェクトに参画ができるとともに緑化や資源循環の大切さを学ぶことができます。

■生ごみコンポストづくり

北九州市は、環境国際協力にも力を入れています。その中のひとつで、ごみ問題に悩まされている東南アジア諸国において、生ごみを堆肥に生まれ変わらせるコンポストづくりを伝授している研究者がいます。

この研究者の方が直接、生ごみコンポストづくりをレクチャーし、ごみの減量化や資源化について学びます。



■廃材を利用した風力発電づくりや小物づくり

市内の大学生や、アーティストの方々がペットボトルや空き缶などの日常のごみを使った風力発電づくりや小物づくりを教え、再利用について学びます。



地元の方々との触れ合いは、修学旅行の素敵な思い出にもつながります。

(4) 今後の取組み

ひとりでも多くの方に環境修学旅行を経験してもらうことで、本市の環境が広く情報発信され、次世代を担う子どもたちの環境意識の醸成が図られることが期待できます。

北九州市に環境修学旅行で訪れた方々が、楽しみながら環境を学んでいただけるよう、今後一層の内容の充実や受入体制の強化を行っていきたく考えています。

6. 九州環境技術創造道場

(1) 概要

本市では、「世界の環境首都」づくりの一環として、優れた環境人材の創出を目的とする「九州環境技術創造道場」を実施しています。

本道場で育成する人材は、環境、特に廃棄物分野での幅広かつ実務的な専門知識を有する気概のある技術者です。受講後は主として九州地域ひいてはアジアの廃棄物問題の総合的な技術者、環境ビジネスのリーダーとしての活躍を期待しています。

講師陣には、本市エコタウンの有する人的ネットワークを活かして、国内でも有数の大学・民間企業等の技術者を招き、主に最終処分場について国内外の最先端の情報を取り入れた講義を実施しています。

また、講義のみの知識偏重教育ではなく、講師・受講生の双方向での討議・交流を実現するため、講師陣と寝食をともにする合宿形式を採用しています。

(2) これまでの取組

九州環境技術創造道場は、平成 16 年度から毎年開催され、平成 22 年度までに民間・行政からの受講生 164 名が修了しています。道場修了後も、受講生による新聞（九州環境技術創造道場新聞）の発行など、講師・受講生間で相互交流が継続しています。



7. 環境学習サポーター

環境学習サポーターは、環境ミュージアムを拠点として、館内外の市内全域で、市民の環境意識を高め、環境学習・環境活動の活性化を図るために、これらをサポートする市民ボランティアです。環境に関する知識や環境学習の指導者としての技術習得のための研修を毎月実施しています。

これまで、「燃料電池実験」「エコ工作」といった環境科学実験や工作、「地球温暖化三択クイズ」「エコラベルビンゴ」といったクイズなど、様々なテーマを種々の体験形式で活動を行い、市民の環境問題に対する意識向上の手助けをしています。また、これらの環境教育プログラムを、

小学校や市民センターなどでも「出張環境ミュージアム」ということで企画し、環境学習や活動のサポートをしています。その他にも、ごみ処理工場や浄化センターなどのガイドを行うなど北九州市全域で幅広く活躍し、市民の環境保全の意識を高め、環境学習・活動を推進しています。

平成 22 年度の環境学習サポーター数は 72 名で、活動日数は 322 日、延べ活動人数は 2,699 人でした。



8. 北九州市自然環境サポーターの育成

平成 22 年 11 月に策定した「北九州市生物多様性戦略」（平成 17 年 9 月策定「北九州自然環境保全基本計画」を改訂）の 5 つのリーディングプロジェクトの一つとして「自然に精通した人材（北九州市自然環境サポーター）の育成」をあげています。

自然環境サポーターとは、自然に対する正しい知識や、自然との上手なつき合い方などを習得した自然分野での市民応援団のことで、平成 17 年度から開始した養成講座の修了生をいいます。

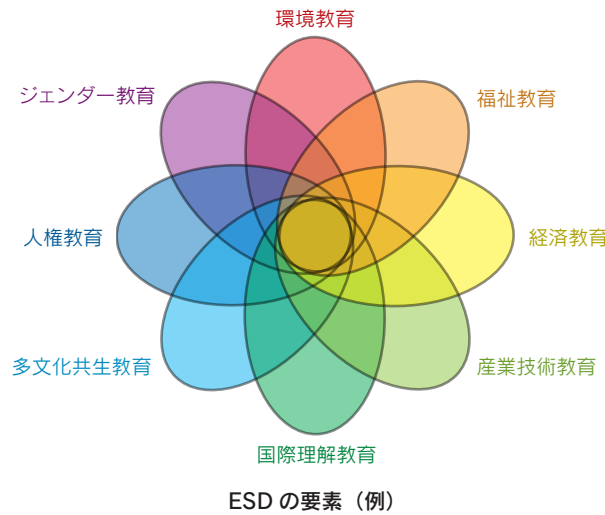
平成 21 年度末までに、4 ケ年にわたり養成講座、第 1 期（56 名）、第 2 期（37 名）、第 3 期（66 名）及び第 4 期（36 名）を実施しました。これらのサポーターの方々が、北九州市の自然のフィールドで様々な活動をしています。



9. 「持続可能な開発のための教育 (ESD)」の推進と
国連大学・地域拠点 (RCE) の認定

(1) 持続可能な開発のための教育 (ESD: Education for Sustainable Development)

持続可能な社会を実現するための教育で、環境教育、人権教育など、幅広い教育を総合的に進めるものです。また、教育は、学校のみならず、家庭、社会、職場などで、また、子どもからおとなまでを対象にしています。一人ひとりが、世界の人々や将来世代、また、環境との関係の中で生きていることを認識し、よりよい社会づくりに参画するための力を育む教育です。



(2) 本市が目指すESD

本市は、「世界の環境首都」を目指しており、それは「持続可能な社会」を構築することです。北九州市のESDはまさに、環境首都づくりのための教育であり、その推進のために、平成18年9月、市民・NPO、学校、企業、行政等から構成された「北九州ESD協議会」(加盟団体69団体、平成22年6月現在)が設立されました。

多様な教育を結び付けていくとともに、その中に「持続可能な開発」の考え方を取り入れ、活動の愛称である「未来パレット」を活用し、市民への啓発を進めていきます。

平成22年度の活動は次のとおりです。

- 広報誌等の作成
- 市民センター等におけるESD拠点事業の展開
- ESD地域リーダー養成講座
- 出前講演
- 子ども向けESD教材の開発と普及
- 国内外との連携

- 5月 RCE国際会議
- ESD-J総会・全国ミーティング
- ESD-J理事会

- 韓国RCE (トンヨン) の受け入れ
- 8月 韓国トンヨンスタディツアー
- 12月 韓国RCE (トンヨン) の受け入れ
- 3月 国内RCE実務担当者会議



北九州におけるESD活動の愛称



地域リーダー養成講座の様子



韓国スタディツアーの様子

(3) 国連大学・地域拠点 (RCE) の認定

平成18年12月に本市は、国連大学が全世界で進めているESD推進のための「地域拠点 (Regional Centre of Expertise: RCE)」に、世界22地域 (平成23年2月時点85地域) とともに認定されました。本市のESD活動を促進するとともに、国際的な社会との情報の共有や連携を推進しています。

10. 北九州市環境首都検定の実施

(1) 目的

本市では、市民環境力の強化を図るため、平成20年度に「北九州市環境首都検定」を創設しました。

これは、「北九州市環境基本計画」(平成19年10月策定)の戦略プロジェクト並びに「北九州市環境モデル都市行動計画」の取組の一つでもあります。

北九州市独自の環境分野の検定を実施することによって、環境学習の機会を増やし、環境意識のレベルアップや環境に関心を持つ市民の裾野を広げます。

また、本市の環境首都への取組における認知度を高めるとともに、エコライフの取組を身近に感じることができるきっかけをつくります。

平成22年度は、主に小学生向けの「ジュニア編」と主に中学生以上向けの「一般編」の2部門で実施しました。平成21年に比べ受検者が228人増加し、特にジュニア編が158人も増えました。70点以上取得者には合格証を交付し、100点取得者などに対しては表彰式で賞状を交付しました。

(2) 検定の概要

- [受検資格] なし
- [受検料] 無料
- [出題形式] ジュニア編: 問題数40問 (4択形式)
一般編: 問題数50問 (4択形式)
- [合否判定] 70点以上合格
- [主な出題範囲]

 - ジュニア編: 北九州市小学校高学年用環境教育副読本「みんなで守ろう!! きれいな地球」
 - 一般編: 公式テキスト

- [学習ツール]

 - 公式テキスト環境局ホームページで模擬問題、過去問題



検定実施会場の様子



平成22年度表彰式の様子

(3) 実施結果 (平成22年度)

[実施日時] 平成22年12月19日 (日) 10:00 ~ 11:30

[会場] 西日本総合展示場

[実施結果]

	ジュニア編	一般編	計
受検者数	231人	827人	1,058人
平均年齢	15.8歳	44.0歳	—
平均点	77.8点	74.7点	—
合格者数 (70点以上)	181人	569人	750人
合格率	78.4%	68.8%	70.9%
最高点 (100点)	6人	5人	11人

[特徴]

- ① 家族、学校、企業、地域団体など様々なグループで受検 (78団体、731人)
- ② 一堂に会した受検 (同じ教室での世代間交流)
- ③ 下関市や周辺地域のほか、北海道など市外からも128人 (12%) が受検
- ④ リピーターの増 (平成22年度26.4%、平成21年度17.1%)



合格証 (70点以上)



合格証 (90点以上)

(4) 今後の取組

平成23年度は、12月18日 (日) に実施します。受検者の皆さんからいただいたアンケートの結果 (回収率: ジュニア編95.2%、一般編98.5%) も参考にしながら、より楽しく、より役立つ北九州市らしい検定制度を確立し、環境への意識の向上、ライフスタイルの変革につなげていくことを目指します。

また、企業のCSR活動に役立てるなど様々な場での活用を拡げていきます。

平成23年度は、現在の公式テキストを改訂し、秋に販売を開始します。